

【授業実践の振り返り】ダラス小 1.2.3 国語・生活

小1&2 生活「たのしい秋」 / 小1 国語「しらせたいなみせたいな」 / 小2 国語「馬のおもちゃの作り方」 / 小3 国語「食べ物のひみつを教えます」

	活動	成果・子ども達の様子	備考
小1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小2から受け取った「あきのおもちゃの作り方」説明文を読みながら、実際におもちゃを作ってみる。</li> <li>・小2にお礼の手紙を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小2からの「あきのおもちゃの作り方」の説明文を受け取り、本当に楽しく作って、楽しく遊ぶことができた授業となった。</li> <li>・「おもちゃづくり」の説明文を見るのが初めてであった。「初めてのこと」への取り組みには大変意欲を示していた。</li> <li>・何よりも大きな収穫だったのは、来年への学びに繋がったことである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業でも、年間指導計画通りに授業時間で実施することができた。</li> </ul>
小2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活科でおもちゃを作り、その作り方を国語科で説明文として書く。</li> <li>・小3に添削をして貰った「あきのおもちゃの作り方」説明文を清書する。</li> <li>・小3に添削してもらった「あきのおもちゃの作り方」を清書し、それを小1に渡す。</li> <li>・1年生からお礼の手紙を受け取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何を作る？」ととても楽しそうにおもちゃづくりの話題で盛り上がっていた。普段はあまり意欲的な取り組みが見られない子どもも生き生きとして活動をしていた。</li> <li>・普段は宿題に取り組むことが難しい子どもでも良くやっていたので、改めて子どもにやる気を持たせることの大切さを感じた。</li> <li>・おもちゃの説明文を書く時に、「1年生は漢字が分からないから、ふり仮名をつけないといけないね。」や「（読みやすいように）字も丁寧に書かないといけないね。」と、自分達よりも小さな子ども達に教えるのだという意識が強かった。これがより学習意欲を高めたと思われる。</li> <li>・日本語力の高い子ども達は、おもちゃ作りの時点で込み入った作品を作っていた。それについての説明文を書いたので、必然的に長くて難しい表現も用いた文章になっていた。</li> <li>・小3に添削してもらった説明文の清書の際には、「お兄さんお姉さんに言われたか、ちゃんと直さないといけない」と思ったようで、一生懸命に取り組んでいた。先生からの添削よりも効果があった。</li> <li>・相手に分かりやすい説明文の構成を理解し、実際に活用できるようになった。</li> <li>・小2は、小1と小3の両学年と関わる学年だった、大変だった分、終わってみると「やる価値のある（やり甲斐のある）」授業だと感じられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回はオンライン学習なので、「あきのおもちゃの作り方」を説明文にして小1、小3に渡したが、対面授業の時には、広い場所に2学年が集まり、小1、小3の目の前で小2がおもちゃを実際に作りながら説明をする。小3からは、文章の訂正だけでなく声の大きさや間の取り方など、聞きやすい発表の仕方についてもアドバイスを受ける。</li> <li>・保護者の家庭での協力も不可欠なプロジェクト授業だが、作業負担などに関する不満等は一切聞かれなかった。このような企画に参加できてよかったとのメールもいくつかいただいた。</li> <li>・オンライン授業で行ったため、計画よりも2時間余分にかかった。</li> </ul>
小3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「漢字の広場4」で作った短文を自分で添削する。</li> <li>・小2が書いた「あきのおもちゃの作り方」説明文を添削する。</li> <li>・小2の説明文を添削した経験を生かし、「食べ物のひみつ」を教える説明文を書く。</li> <li>・自分の書いた説明文を読み返して、添削する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語が苦手な子ども達への手立てとして、「作文チェックシート」を用意し、どんな観点で添削したら良いのかを分かりやすくした。また、日本語が苦手な子に添削がしやすいような説明文を意図的に与えた。</li> <li>・小2が書いた説明文を読みながら実際におもちゃを作りながら添削をしたことで、説明文のどこがどのように分かりにくく、そこをどのように変えたら良いのかが分かりやすかったと思う。説明文を読むだけで添削することは難しかったと思われる。</li> <li>・小2に1つの工程につき1ページで書いてもらったので、おもちゃを作りながらの添削がしやすかった。1ページごとに「作文チェックシート」で、確認しながら進めるようにした。</li> <li>・自分達よりも小さな学年に「何かしてあげよう」という場面設定だと、一生懸命に取り組む。</li> <li>・自分の考えをどう伝えるか、相手がどう受け止めるかなどなどを配慮した担任への質問が目立った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダラスでは1クラス20名ほどなので、作文に手を入れたりする担任の作業は大変。しかし、小規模校であればもっとやりやすいと思う。</li> <li>・オンライン授業で行ったため、添削には2時間かかった。（対面授業では1時間の予定であった）</li> <li>・対面授業の際には小2に材料や道具を用意してもらっていたが、今回はオンライン授業だったので小3が用意した。「秋のくらし」（下p32）の学習の一環として、散歩がてらの材料集めをお願いした。</li> </ul>
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダラスでは以前から年間指導計画に入っており、それぞれの学年が該当単元を指導する時期も決まっている。このように一度計画に入れてしまえば、対面授業であれば実施はオンライン学習時よりも大変ではない。</li> <li>・子ども達にとって、「読んでくれる人、聞いてくれる人、見てくれる人」が具体的に設定されていることで学習のモチベーションが上がって良い。</li> <li>・特に日本語が苦手な児童にとっては、作文を添削したり、何かを教えたりすることは、同学年の児童よりも下の学年の児童の方がやりやすく、生き生きと活動できる。</li> </ul>		